



第1073号2021.5.11  
連合中越地域協議会  
長岡市愛宕3-7-24  
TEL 0258-86-0111  
FAX 0258-86-0884  
発行人 矢島 良彦  
定 価 1部10円



# 第92回メーデー各地区大会開催

## 長岡地区はアオーレ長岡、見附地区と小千谷地区も開催



2年ぶりとなる長岡地区大会は5月1日(土)に開催。参加者は280人。例年の参加者を大幅に縮小しての開催。受付では、フェイスシールドを付けた担当者が、体調確認の声かけ、手

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が心配される中、第92回メーデー地区大会が、従来の規模を大幅に縮小して感染防止対策を取り、長岡地区大会はアオーレ長岡アリーナで、見附地区大会は見附市文化ホールアルカディアで、小千谷地区は小千谷市民会館で開催された。

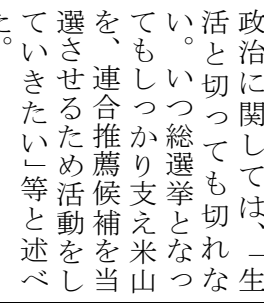
指消毒、検温を実施。参加者は3m四方に5人となるよう配席した椅子に着席。不要不急の会話や密接を慎むようアナウンスが流れた。また、入口では、フードバンク長岡のフードドライブと東日

2年ぶりの開催となった。コロナ禍によりデモ行進も出来ず、規模も縮小で、構成組織・組合員も出ずらい。経済社会はズタズタで、必死に生活している方が多くいる。少しずつワクチン接種など明るい兆しも出てきている。前



本大震災支援募金箱がおかれた。今年のメーデー県統一テーマは「安心して暮らせる社会へ！全集中で取り組もう!!」。司会は、山田SJネット副委員長と小山同委員長が務め、9時45分、近藤SJネット副委員長が「メーデー起源朗読」(裏面)でスタートした。

主催者挨拶に立った矢島実行委員長は、「メーデー地区大会は」



向きに団結して取り組んで行きたい」と述べ、春闘については、「格差是正が焦点。コロナで交渉が難航したところ、業種業態ではそれぞれではなかった。この30年を顧みると、平均賃金が上がってこなかった。経済成長にもつながっていない。雇用を守り、賃上げしていくことが本来の姿」、地域協議会は、「顔の見える地域運動だ。コロナ禍でコミュニケーションの取り方、希薄な関係に知恵を出して行きたい。工夫しながら組合活動をしたい」とい

今年30年を振り返ると、平均賃金が上がってこなかった。経済成長にもつながっていない。雇用を守り、賃上げしていくことが本来の姿」、地域協議会は、「顔の見える地域運動だ。コロナ禍でコミュニケーションの取り方、希薄な関係に知恵を出して行きたい。工夫しながら組合活動をしたい」とい

祝辞が述べられた。



- ★パッハメドレー/J.S. パッハ
- ★四季より「春」/ビバルディ
- ★Sound of Musicメドレー/R. ロジャース
- ★不屈の民/オルテガ
- ★ラ・クンパルシータ/ロドリゲス
- ★邦画メドレー
- ★ピアソラメドレー/A. ピアソラ
- ★葉加瀬太郎メドレー/葉加瀬太郎

ひとときとした。演奏者はアンサンブル・オビリー(プロの音楽家集団)の皆さん



今年30年を振り返ると、平均賃金が上がってこなかった。経済成長にもつながっていない。雇用を守り、賃上げしていくことが本来の姿」、地域協議会は、「顔の見える地域運動だ。コロナ禍でコミュニケーションの取り方、希薄な関係に知恵を出して行きたい。工夫しながら組合活動をしたい」とい



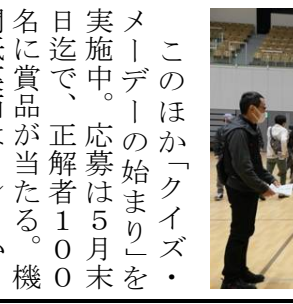
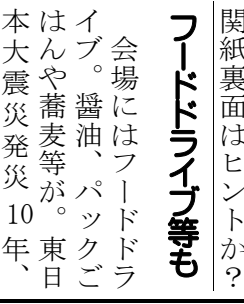
山崎代表は寄付を受け、支援へのお礼や支援状況等が紹介された。



このほか「クイズ・メーデーの始まり」を実施中。応募は5月末日迄で、正解者100名に賞品が当たる。機関紙裏面はヒントか？

会場は静まり、素晴らしい演奏と曲目の解説も加わり、普段なじみの無い方も、コロナ禍で疲れた心を癒やされたようだ。

やお米、長岡市共通商品券、バス券、クッキーが用意され、50人程が賞品をゲット。



サラリーマン川柳(つまらんと テレビ消しても またつける) (家庭でも いつものくせで 窓際に) (受話器取る「ママにかわって」それだけか) (五十肩 家事せぬ罰と 妻が言う)

当日募金額 57700円  
あしなが育英会 東日本大震災・津波被災者支援へ

サラリーマン川柳 (ミスをして てへぽろ返す オレの部下) (福沢を 崩した途端 去る野口) (夢がある 君の話は 無理がある) (愛してる 言えば言うほど うたがわれ)

北魚沼支部

★折込チラシにて市民に紹介

メーデーは国際労働者連帯の日として始まり、130年以上に渡って世界中の各地域で、働く者の生活と地位の向上や権利の拡大を求め、大会やデモ行進によるアピール等が行われています。経済のグローバル化が急速に進む現代において、世界中の働く仲間が力を合わせて、より良い社会を目指すことの意義と必要性は、今日ますます大きくなっています。また日本では、昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大の中で、社会の一番弱い人たちがその影響をより大きく受けており、日々の生活の確保に苦しんでいる人たちが沢山生まれています。このことは、日本社会の「公助」の貧弱さを表しているもので、社会保障制度をはじめとした「公助」の拡充が強く求められています。



2019年第90回北魚沼地区メーデー大会



メーデーの歴史

メーデーの発端は、1886年。アメリカの「合衆国カナダ職能労働組合連盟」が、シカゴを中心に8時間労働制を要求して統一ストライキを行ったことでした。その時のスローガンは、「第1の8時間は仕事のために、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間は、おれたちの好きなことのために」でした。

当時は1日12～14時間労働が当たり前で、それを改善するために、8時間労働制を要求したのです。ストライキを打っていた労働者4人に対して警官が発砲し、射殺されました。それに抗議して集会を開いていた労働者と警官隊が衝突し、さらに死者が出ました。

アメリカ合衆国の労働者に対して国際的に連帯するため、第2インターナショナルという労働者の国際組織が呼びかけて、1890年5月1日にヨーロッパ各地と米国で集会和デモが行われました。これが第1回国際メーデーです。

日本でも明治時代には既にメーデーが行なわれ、働く者の権利を要求し、集会が開かれますが、日中戦争へと向かう中で、労働組合は大政翼賛会へと変質し、治安維持法の下で自由な集会は禁止されています。1936年から1945年までの10年間はメーデーも禁止され、戦後になってようやく復活しました。



Youtubeチャンネル: 連合新潟TV QRコード

第92回北魚地区メーデー実行委員会

(連合新潟中越地域協議会北魚沼支部、北魚沼地区平和環境労働会議等で構成しています。)

★クイズ・メーデーの始まり 応募してね!(5月末日〆切)

メーデーの起源

メーデーは、1884年アメリカの職業別労働組合が「5月1日を期して8時間の労働時間・8時間の睡眠時間・8時間の自分の時間の要求を掲げて、ゼネストとデモンストレーションを行う」ことを決め、1886年にその決議を実施したことに始まります。そして1889年、第2インターの大会で、アメリカの労働者の、この闘いを記念して、5月1日を国際的な労働者の団結と闘いの決意を示す日と決め、翌1890年に第1回メーデーが開催されました。

日本におけるメーデーは、1920年(大正9年)5月2日、日曜日に第1回のメーデーが上野公園において、およそ1万人の労働者が結集して実施されました。その後、弾圧を受けながら16回開催されましたが、遂に1935年(昭和10年)をもって、当時の戦争政策遂行を図る権力の弾圧で中断しました。

しかし、戦後の1946年(昭和21年)に復活し、年を経るにしたがって盛大になり、現在、「働く者の祭典」として引き継がれ、今年2021年、第92回を迎えることになりました。

今日、新型コロナウイルス感染症が、私たちの生活や雇用、経済に大きな影響をもたらす続けています。そして働く者の環境は、コロナ禍に加え、産業・経済のグローバル化、少子高齢化・人口減社会到来という社会構造の変化の荒波に揉まれており、企業規模間、雇用形態間の違いや男女等による格差の是正、雇用労働対策、長時間労働の是正とワーク・ライフ・バランスの実現、様々なストレス対策やハラスメント対策、社会的弱者への対策強化、そして東日本大震災から10年、未だ道半ばの被災地域の復興・再生などと喫緊課題山積です。

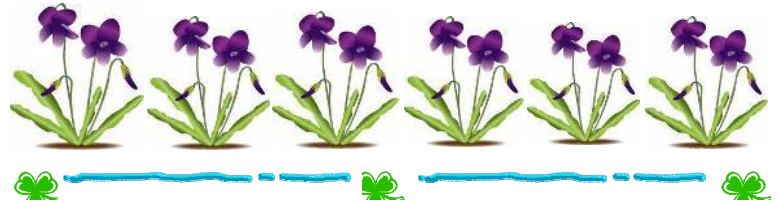
本メーデーの統一テーマは「安心して暮らせる社会へ! 全集中で取り組もう!!」です。すべてのメーデー参加者とともに、希望が持て、安心して働き・暮らせ、支え合える社会づくりに邁進することを求めています。

今や当たり前となっている、「8時間労働」を勝ち取るために立ち上がった、労働者の勇気に思いを馳せ、決意新たに第92回メーデーを迎えました。

そして、メーデーの起源を思い起こしました。

第92回メーデー 各地区大会

特集



小千谷支部

令和3年4月29日に第92回小千谷地区メーデーを小千谷市民会館にて開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、参加者を制限し規模を縮小しての開催となり、プラカード審査やデモ行進中止しましたが、抽選会では各単組毎に当選が発表され、盛り上がりを見せていました。メーデースローガンとメーデー宣言を参加者全員



で確認し、最後は“団結ガンバロー”で連合小千谷支部加盟各単組の団結を誓い合い締めくくりました。



見附支部

第92回見附地区メーデーを4月30日18:30から見附市文化ホールアルカディアで、来賓久住時男見附市長、菊田真紀子衆議院議員、小泉勝典県議会議員、佐々木志津子市議会議員を招いて開催した。

火山実行委員長の挨拶で、コロナ感染症により多くの方が今も苦しんでいる。そうしたことから、わたしたち連合がメーデーという場を活用してあらためて労働者として、人として何が今起きているのか、そして出来るのかを感じて頂きたい今回のメーデー開催することに決定した、と述べた。



今回のメーデーの記念講演として、最初にみつけ・ふれあい食堂の佐々木共同代表から「孤食をなくそう! みんなにあたたかい食卓を!」次にいままち・わくわく食堂の金子代表から「こども食堂を通じて貧困の連鎖を断ち切る」というテーマで講演をいただいた。最後の講演は、フードバンクみつけから長谷川代表と樺沢事務局長から「フードバンクみつけの役割」についての講演をいただいた。

今回のメーデーは、今自分になにが出来るのか、また労働運動の大切さを再認識するメーデーとなった。

